

## 036 都城市 3館周年記念特別展

都城市

開催日：令和3年7月3日(土)～8月29日(日) ■ 開催場所：都城歴史資料館、高城郷土資料館、都城島津邸、都城市ウエルネス交流プラザ



## 実施状況

都城歴史資料館、高城郷土資料館開館30周年と都城島津邸開館10周年を記念して、3館合同の展示会やシンポジウムを開催。

都城島津邸では『古事記』『日本書紀』に関する原史料が展示され都城に縁のある記紀神話を、都城歴史資料館では「記紀」に登場する「熊襲・隼人」を、高城郷土資料館では、仁徳天皇の後となったとされる「髪長媛」を紹介。記紀編さんの歴史と律令制下の日向・大隅・薩摩各国の様子についてひも解きました。

「記紀」をテーマとしたシンポジウム(8月1日・都城市ウエルネス交流プラザ)では、國學院大学の渡邊卓准教授が「『日本書紀』の書物史」と題し基調講演。『日本書紀』と『古事記』の違いを解説し、『日本書紀』がどのように伝えられ、国学がどのように発展してきたかを説明しました。また、パネルディスカッションでは、渡邊准教授と県立看護大学の大館真晴教授、ラ・サール学園(鹿児島県)の永山修一教諭が登壇。記紀における熊襲、隼人の位置づけや歴史的背景、江戸時代の記紀研究の成果などを紹介しました。

このほか、都城歴史資料館では、小中学生を対象にしたワークショップを開催しました。子どもたちは、昭和38年に平城宮で出土した隼人の盾のミニチュアづくりに挑戦、実物の10分の1の高さ13cm、幅5cmほどの五角形の板に、実物と同じ渦巻きと三角形の模様を描いて、作っていました。



## 主催

文化庁、厚生労働省、宮崎県、宮崎県教育委員会、都城市、都城市教育委員会、第35回国民文化祭宮崎県実行委員会、第20回全国障害者芸術・文化祭実行委員会、第35回国民文化祭、第20回全国障害者芸術・文化祭都城市実行委員会

## 037 宮崎県北日向神話「出逢いの聖地のべおか」巡り

延岡市

開催日：令和3年7月3日(土)～10月17日(日) ■ 開催場所：愛宕山展望台、JR延岡駅前複合施設エンクロスほか



## 実施状況

宮崎県北部に点在する日向神話ゆかりの地について知識を深めようと、神話をテーマとしたパネルや光のアート作品の展示、バスツアーなどさまざまなイベントが企画されました。

10月9日には、日帰りの神話勉強会ツアーが行われ、延岡市内の歴史や神話に興味がある20人が参加。古代史研究家で三重大学の宮崎照雄名誉教授を特別講師に、同市内や高千穂町、日向市の神社や名所をバスで巡りながら、古代史と神話のつながりを解説しました。

延岡市の愛宕山は、天孫ニニギノミコトとコノハナサクヤヒメが出会った場所と地元に伝わっており、展望台には延岡市在住のイラストレーター・みよこみよこさんのパネルなどが展示されたほか、展望台の上り口周辺では、LED照明3,000球を駆使した“お花畑”が出現。みよこみよこさんのイラストも巨大アートとして登場し、期間中には約1万4,000人が訪れ、幻想的な世界を楽しみました。

JR延岡駅前複合施設エンクロスでは、県北の神話スポットを紹介する「デジタル仕掛け絵本」が登場。延岡市のまちなか循環バス路線を活用した「神話歴史周遊バス」には、10日間の運行で300人余りが利用しました。

## プログラム

日向神話スポット案内、神話歴史周遊バス、神話勉強会ツアー、神話パネル展示、神話の光アート



## 主催

文化庁、厚生労働省、宮崎県、宮崎県教育委員会、延岡市、延岡市教育委員会、第35回国民文化祭宮崎県実行委員会、第20回全国障害者芸術・文化祭実行委員会、第35回国民文化祭、第20回全国障害者芸術・文化祭延岡市実行委員会 ▽協賛=旭化成株式会社

## 038 南浦文之と櫛間院龍源寺国際フォーラム

串間市

開催日：令和3年7月31日(土)、8月1日(日) ■ 開催場所：串間市文化会館ほか



## 実施状況

櫛間院龍源寺の高僧であった南浦文之にスポットを当て、郷土の歴史ロマンをひも解きました。

東京大学史料編纂所の畑山周平助教ら4人が講演し、16世紀後半の日向国南部の戦国騒乱や中国との外交など、当時の「くしま」の情勢を解説。南浦文之は領主が替わると寺から離れており、畑山助教は「豊州家、島津氏側の僧侶という性格が強かったのでは」と推測しました。

全体討論会では、九州大学の東英寿教授が、南浦文之が漢文を誰でも読めるように考案した「文之点」を紹介。現代の訓読法の源流となっていることを説明しました。

最終日は、戦国時代末期に外国船の補給港として知られていた本城地区で、「大学の先生とさるく中世の Minato」が開かれました。

**プログラム** 【南浦文之と櫛間院龍源寺国際フォーラム】畑山周平（東京大学史料編纂所）、張文朝（台湾・中央研究院中国文哲研究所）、陳翀（広島大学文学部）、大淵貴之（鹿児島大学教育学部）、東英寿（九州大学大学院比較社会文化研究院）

**【郷土芸能】** 市木保育所「松ノ下笹おどり」、柱松大おどり保存会「都井大おどり」

**【現地見学会】** 本城歴史発見塾「大学の先生とさるく『中世の Minato』」

## 主催

文化庁、厚生労働省、宮崎県、宮崎県教育委員会、串間市、串間市教育委員会、第35回国民文化祭宮崎県実行委員会、第20回全国障害者芸術・文化祭実行委員会、第35回国民文化祭、第20回全国障害者芸術・文化祭串間市実行委員会

## 039 椎葉民俗芸能博物館特別展「椎葉神楽の世界」

椎葉村

開催日：令和3年8月3日(火)～10月17日(日) ■ 開催場所：椎葉民俗芸能博物館



## 実施状況

村内26地区で脈々と受け継がれている椎葉神楽の魅力伝えようと、貴重な神楽面や夜神楽の様子を写した写真60点などを展示しました。来場者からは「夜神楽の雰囲気味わえました」と喜びの声が聞かれました。

冬まつりとして地区ごとに神楽が奉納されている椎葉神楽。平成3年に国の重要無形民俗文化財に指定されていますが、本特別展はあらためてその貴重さ、良さを認識してもらおうと開かれました。椎葉民俗芸能博物館の神楽常設ブースとは別に、ロビーと特別展示室に「椎葉神楽の世界」コーナーを設置。県伝統工芸士で神楽面作家の古川三鶴亀さん制作の神楽面や、3つの顔が表現された「三方荒神面」など貴重な面が並びました。神楽の写真では、地区ごとに神楽衣装や神楽殿に違いがあることが分かりました。

期間中に御幣づくり体験も行われ、手作りの御幣を持って舞う子ども神楽も披露されました。

**プログラム** 「椎葉神楽の世界」展示／神楽面と衣装(2団体)、神楽面展示と制作過程の紹介、各地区の御幣展示、写真家生田浩氏写真展、神楽映像の放映

御幣づくり体験／上椎葉神楽保存会と尾前神楽保存会の指導による御幣づくり、子ども神楽披露、神楽料理(煮しめ、そば)試食

## 主催

文化庁、厚生労働省、宮崎県、宮崎県教育委員会、椎葉村、椎葉村教育委員会、第35回国民文化祭宮崎県実行委員会、第20回全国障害者芸術・文化祭実行委員会、第35回国民文化祭、第20回全国障害者芸術・文化祭椎葉村実行委員会

## 040 西都「まっぼす」神楽～源流と変化の共演～

西都市

開催日：令和3年9月18日(土)、19日(日)、10月9日(土) ■ 開催場所：西都原御陵墓前広場、西都市文化ホール



## 実施状況

西都市内各地で傳承されている銀鏡神楽、尾八重神楽、穂北神楽、高屋神楽、神代神楽の5つの神楽保存会が一堂に会し、西都原御陵墓前広場で二日間にわたり、地域に根付く伝統の舞いを力強く奉納しました。

9月18日は、各保存会の代表的な演目を組み合わせた全13番をこの日限りの「西都神楽」として奉納。19日には、大峡神楽(延岡市)、山宮神楽(日南市)、祓川神楽(高原町)の保存会も加わって舞の共演となり、観客たちの目を楽しませていました。10月9日には、集団離村により継承が途絶えた西都市の寒川神楽の疑似奉納が行われました。

## プログラム

【第1部 西都神楽(18日)】「書道パフォーマンス」妻高校、「神事」穂北神社、「花の舞」銀上学園、「市神楽」穂北神楽、「鬼神」神代神楽、「一人剣の舞」高屋神楽、「地割」尾八重神楽、「荘巖・柴荒神・悧」銀鏡神楽、「繰下ろし」穂北神楽、「大神神楽」高屋神楽、「四人神崇」尾八重神楽、「白蓋鬼神(あまほめ)」銀鏡神楽、「將軍」神代神楽、「お清」尾八重神楽、「綱切り」穂北神楽、「戸開の舞」高屋神楽、「神送」高屋神楽 【第2部 日本の神楽(19日)】ダンス「神楽ひい」みやざき犬、「神事」銀鏡神社、「花鬼神」穂北神楽(中学生)、「鎮守・幣神髓神楽 幣の手舞い・三番荒神」大峡神楽(延岡市)、「清山」銀鏡神楽、「ちよくめん・たいつり舞い」山宮神楽(日南市)、「鬼神・將軍」神代神楽、「磐石」穂北神楽、「十二人剣」祓川神楽(高原町)、「岩通しの舞」高屋神楽、「百式拾番」尾八重神楽

## 主催

文化庁、厚生労働省、宮崎県、宮崎県教育委員会、西都市、西都市教育委員会、第35回国民文化祭宮崎県実行委員会、第20回全国障害者芸術・文化祭実行委員会、第35回国民文化祭、第20回全国障害者芸術・文化祭西都市実行委員会

## 041 日本遺産のまち 西都を巡るサイクルフォトラリー

西都市

開催日：令和3年9月26日(日) ■ 開催場所：西都市内



## 実施状況

この催しは、西都市が進める「九州一の自転車を活かしたまちづくり」と宮崎市、新富町とともに平成30年に「古代人のモニュメントー台地に絵を描く 南国宮崎の古墳景観ー」として日本遺産に認定されたことを受けて開催されました。

市内外から25組43人が参加し、秋晴れの中、古代からの歴史的遺産が多く残る西都原古墳群周辺に設定されたチェックポイント41か所をマップを頼りに、自転車で軽快に巡りました。

チェックポイントには、西都原古墳群だけではなく、記紀の道、木喰五智館、千畑古墳、速川神社、銀鏡神社等の他、飲食店16か所も指定されており、思い思いに多彩な歴史やグルメも堪能していました。

集計時にはチェックポイントを回っているかを撮影機器で確認。特定カテゴリーが揃うとボーナスポイントが得られるなど、遊び心ある工夫も好評でした。「久々のスポーツイベントで、とても楽しかった」「普段なら気付かない観光地を知ることができました」「見どころが多く、西都市の地域資源を楽しみました」と参加者からは多くの喜びの声が聞かれました。

## 表彰

【ソロの部】1～3位

【グループの部】1～3位

特別賞(最年長賞、最年少賞)

## 主催

文化庁、厚生労働省、宮崎県、宮崎県教育委員会、西都市、西都市教育委員会、第35回国民文化祭宮崎県実行委員会、第20回全国障害者芸術・文化祭実行委員会、第35回国民文化祭、第20回全国障害者芸術・文化祭西都市実行委員会

## 042 企画展「古墳時代を駆けた島内武人」

えびの市

開催日：令和3年10月1日(金)～11月28日(日) ■ 開催場所：えびの市歴史民俗資料館



## 実施状況

えびの市の島内地下式横穴墓群を全国に発信しようと、島内139号地下式横穴墓から出土した約450点の遺物が展示されました。

同墓は平成26年、島内地下式横穴墓群の一角で発見され、古墳時代の武器や甲冑など数百点が納められていることが判明。日本の古墳発掘史上最後ともいわれるほど多くの副葬品が出土し、保存処理が続けられています。

企画展では、これまでに保存処理を終えた銀装円頭大刀や鉄剣、槍などの武器や、甲冑、盛矢具などの武具、杏葉などの馬具のほか、当時の形がほぼ残っており、全国的にも珍しいという肩よろいが展示されました。会場には展示物に関するパネルの設置もあり、来場者は興味深く見入っていました。

担当者は「南九州初の出土品も含め、貴重な品々を一堂に見ることができ、機会を提供できた」と話していました。

鹿児島大学総合研究博物館の橋本達也教授を講師に迎え、「島内武人とヤマト政権」をテーマとした講演会や、島内地下式横穴墓群のバスツアーが企画されていましたが、新型コロナウイルスの影響を受け、中止となりました。

## 主催

文化庁、厚生労働省、宮崎県、宮崎県教育委員会、えびの市、えびの市教育委員会、第35回国民文化祭宮崎県実行委員会、第20回全国障害者芸術・文化祭実行委員会、第35回国民文化祭、第20回全国障害者芸術・文化祭えびの市実行委員会

## 043 高城合戦

木城町

開催日：令和3年10月2日(土)、3日(日) ■ 開催場所：木城町総合交流センターリパリス ほか



## 実施状況

戦国時代に難攻不落の城として知られた木城町の山城「高城」を舞台に繰り広げられた「高城合戦」をテーマとして専門家を招いてトークショー、史跡巡りツアーが開かれました。参加者は九州の戦国時代を語る上で欠かせない戦いに思いをはせながら、合戦の意義や史跡の保護、活用などについて理解することができました。

トークショーでは、鹿児島国際大学短期大学部の三木靖名誉教授が「高城合戦を改めて考える」と題して講演。2度の高城合戦を紹介し、「周辺でも多くの戦いが行われており、関連史跡を残すべき」と提言しました。

また、宮崎市文化財課の竹中克繁さん、木城町教育委員会職員から高城の調査、研究の発表もあり、来場者は熱心に聞き入っていました。

史跡巡りツアーでは、同町教育委員会職員がガイドを務め、関連史跡をバスで巡りました。空堀や土塁の痕跡が残る城山公園、1578年(天正6年)の第一次高城合戦の古戦場跡や島津氏が豊臣氏に決戦を挑んだという1587年(天正15年)の第二次高城合戦の舞台である根白坂陣跡などを訪れました。また、第一次高城合戦で戦死した島津の武将、北郷蔵人之墓については、地元ガイドとして木城史談クラブの原朋輝さんが解説しました。

## 主催

文化庁、厚生労働省、宮崎県、宮崎県教育委員会、木城町、木城町教育委員会、第35回国民文化祭宮崎県実行委員会、第20回全国障害者芸術・文化祭実行委員会、第35回国民文化祭、第20回全国障害者芸術・文化祭木城町実行委員会

## 044 神話フェスティバル in 青島

宮崎市

開催日：令和3年10月9日(土) ■ 開催場所：青島能楽殿



## 実施状況

神話をメインテーマに、劇や伝統芸能、語り、神楽、音楽などを披露。県内外で活躍する俳優たちが来場者を神話の世界へ誘いました。

午前の部は、青島臼太鼓踊りで始まり、メインの「天語り・海幸山幸」では、神話絵(マーク・エステル作)を背景に、脚本家の故市川森一さんの原案を、妻で女優の柴田美保子さんが朗読、慈愛や怒りの感情を織り交ぜながら語りました。続く馬場子供神楽(大分県)は「八岐大蛇」を舞台狭しと舞い、子どもたちの熱演に会場からは拍手喝さいが贈られました。

午後の部の音楽劇「神武様」では、国造りから日向三代を経て、神武天皇が誕生するまでを、地元の女優の濱崎けい子さんの語り、神話の杜みやざきによる劇、地元の田畑吉親さんによる神話背景という構成で、神話のフルコースを楽しんでいただきました。後半は、広報アンバサダー「アルケミスト」のコンサート、最後はアルケミストと濱崎さんのコラボで、童謡とポエムの世界を上演。フィナーレでは、大会イメージソング「ひなたの真ん中で」を歌って終了しました。



## プログラム

【午前の部 天語り・神楽】青島臼太鼓踊り、「天語り」柴田美保子、「八岐大蛇」馬場子供神楽(大分県)

【午後の部 神話劇・コンサート】音楽劇「神武様」濱崎けい子・神話の杜みやざき、アルケミスト・コンサート&濱崎けい子・童謡とポエム

主催

文化庁、厚生労働省、宮崎県、宮崎県教育委員会、宮崎市、宮崎市教育委員会、第35回国民文化祭宮崎県実行委員会、第20回全国障害者芸術・文化祭実行委員会、第35回国民文化祭、第20回全国障害者芸術・文化祭宮崎市実行委員会、宮崎神話実行委員会 2020

## 045 日之影町伝統工芸・障がい者作品展

日之影町

開催日：令和3年10月10日(日)～17日(日) ■ 開催場所：道の駅青雲橋



## 実施状況

暮らしに息づく竹細工などの伝統工芸品が高い評価を得ている日之影町。今回の展示会では、竹細工職人の小川鉄平さんの作品を中心に、わら細工や障がい者の作品を展示し、会場を訪れた人たちの目を引き付けていました。

小川さんは、県の伝統工芸士飯干五男さんや廣島一夫さん(ともに故人)に師事。農作業の小物や農作物を入れて背負う「かるい」、腰にひもでくくりつける「腰てご」など農作業の必需品として使い継がれてきた道具や、かるいを現代風にアレンジしたバッグなど、手作りの作品が並びました。小川さんによる実演もあり、来場者は足を止めて小川さんの手元に熱い視線を送っていました。同展では「わら細工たくぼ」が出展した、稲わらでこしらえた「鶴亀しめ縄」や「祝結び」の縁起物も紹介されました。

「障がい者作品展」では、車いす生活を送しながらモザイク絵画制作に取り組む佐藤幸雄さんの作品を展示。色とりどりに色付けされた卵の殻を使って完成させた日之影町の景色や、人物画など美しい作品に来場者は魅了されていました。このほか、重度知的障がい者の生活介護事業所「一步」の利用者の作品も展示されました。



主催

文化庁、厚生労働省、宮崎県、宮崎県教育委員会、日之影町、日之影町教育委員会、第35回国民文化祭宮崎県実行委員会、第20回全国障害者芸術・文化祭実行委員会、第35回国民文化祭、第20回全国障害者芸術・文化祭日之影町実行委員会

## 046 きままに高千穂さるこっ！

高千穂町

開催日：令和3年10月16日(土) 開催場所：高千穂町内



## 実施状況

神話にゆかりのある高千穂町内のスポットを巡りながら、神都高千穂の魅力に触れる体験型ツアーが行われました。県内各地から10人が参加、観光ガイドの案内で神話の源流に触れました。

一行はまず、天岩戸神社へ。神職の案内で神域である天岩戸に参拝し、天安河原まで散策しながら、天岩戸神話に思いを馳せました。天岩戸交流センターあまてらす館では、神楽奉仕者の指導で、神楽を舞う神庭の四方を飾る切り紙「彫りもの」作りを体験。また、神楽奉仕者による神楽笛の披露もあり、参加者からは感動の声が上がりました。

昼食は古民家を移築した神楽の館で、高千穂の郷土料理かっぱ鶏や煮しめ、神楽うどんを堪能し、高千穂の食文化にも触れました。午後は天孫降臨神話が伝わる榎觸神社や荒立神社、高天原遥拝所などを巡り、神話の世界を身近に感じました。

参加者からは「今回ほど心に残るツアーはありませんでした」「詳しい説明があり、高千穂への興味がより強くなりました。充実した1日になりました」との感想が聞かれました。

## 行程

天岩戸神社、天安河原散策－天岩戸交流センター「あまてらす館」－神楽の館－榎觸神社、高千穂碑、四皇子峰、高天原遥拝所、荒立神社、天真名井

## 主催

文化庁、厚生労働省、宮崎県、宮崎県教育委員会、高千穂町、高千穂町教育委員会、第35回国民文化祭宮崎県実行委員会、第20回全国障害者芸術・文化祭実行委員会、第35回国民文化祭、第20回全国障害者芸術・文化祭高千穂町実行委員会

## 047 高千穂夜神楽御祭

高千穂町

開催日：令和3年10月15日(金)～17日(日) 開催場所：高千穂神社 神楽殿



## 実施状況

神楽の魅力を広く発信することを目的に、いずれも国の重要無形民俗文化財に指定されている「高千穂の夜神楽」、「球磨神楽」（熊本県）、「豊前神楽」（福岡県）による神楽公演を行いました。

午前の部と午後の部の2回公演で開催、新型コロナウイルス感染防止対策として観客も県内在住者のみ、各部100人以内に制限しての開催となりましたが、それぞれ特色のある神楽に観客は興味深く見入っていました。

来場者からは「子どもが神楽好きなので、一緒に見に来ました。九州でも地域によって衣装や太鼓のリズム、笛の音も全く違って新鮮でした」との感想が聞かれました。

高千穂町自然休養村管理センターでは「たかちほハートフル作品展」（10月15～17日）を開催。町内で文化芸術活動に取り組む障がい者施設の利用者や園児の個性豊かな作品が展示され、3日間で約490名が来場しました。

## プログラム

【午前の部】「三番神楽」「大幣の舞」「大小の舞」球磨神楽 ▽「御先」豊前神楽 ▽「杉登」「弓正護」「住吉」高千穂の夜神楽  
【午後の部】「三番神楽」「小幣の舞」「大小の舞」球磨神楽 ▽「御先」豊前神楽 ▽「岩潜」「八鉢」「蛇切」「雲下し」高千穂の夜神楽

## 主催

文化庁、厚生労働省、宮崎県、宮崎県教育委員会、高千穂町、高千穂町教育委員会、第35回国民文化祭宮崎県実行委員会、第20回全国障害者芸術・文化祭実行委員会、第35回国民文化祭、第20回全国障害者芸術・文化祭高千穂町実行委員会

## 048 高原町郷土芸能祭(中止)

高原町

開催日：令和3年9月4日(土) 開催場所：高原町総合保健福祉センター ほほえみ館神武ホール



**予定していた事業内容** 江戸時代末期に発行された「三国名勝図絵」によると、高原町の地名の由来は「『高天原』を略したもの」という説があり、それを裏付けるように、「天の逆鋒」、「狭野神社」など、神話や伝説にゆかりの地名が町内に多く残り、現在も神楽などの芸能が伝承されています。

郷土芸能祭では、町内各地域に伝わる伝統芸能を披露するほか、伝統継承の大切さをテーマとした特別講演を企画していました。

また、障がい者施設の利用者によるアート作品展や地元の特産品コーナーを設置し、来場者に同町の文化芸術に触れてもらう予定でした。

**予定していた舞台・展示** 【舞台】出演／東雲太鼓(後川内中学校)、狭野神楽(狭野神楽保存会)、奴踊り(狭野奴踊り保存会)、祓川神楽(祓川神楽保存会)▽特別講演／相良 照代

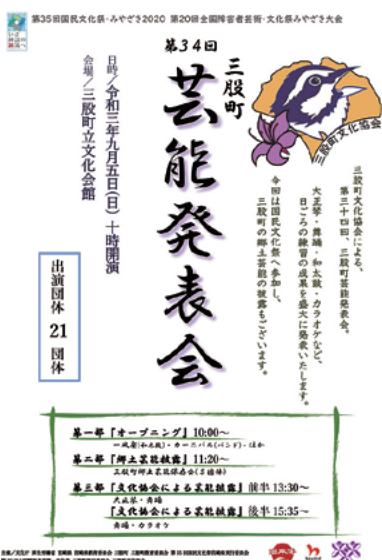
【展示】社会福祉法人興愛会「あさひの里」、株式会社常喜「サポート友喜たかはる」、特定非営利活動法人「グループホーム華」

**主催** 文化庁、厚生労働省、宮崎県、宮崎県教育委員会、高原町、高原町教育委員会、第35回国民文化祭宮崎県実行委員会、第20回全国障害者芸術・文化祭実行委員会、第35回国民文化祭、第20回全国障害者芸術・文化祭高原町実行委員会、高原町青少年育成町民会議

## 049 三股町芸能発表会(中止)

三股町

開催日：令和3年9月5日(日) 開催場所：三股町立文化会館



**予定していた事業内容** 本発表会は、町内に伝わる棒踊り、奴踊りなどの郷土芸能をはじめ、町外で活動する芸能団体や障がい者団体をゲストに迎え、文化交流の場となるイベントで、町内外から21団体が出演する予定でした。

第1部は、同協会に所属する園児による太鼓演奏、エイサー踊りの披露や、障がい者団体による演奏で開幕。第2部では、地域の子どもも参加して棒踊りや奴踊りなど郷土芸能を披露し、文化継承の大切さを伝える予定でした。

第3部では、同協会の会員による舞踊や大正琴、カラオケ。出演者たちには日頃の稽古の成果を発表する場となっており、コロナ禍の中でも感染防止に工夫をしながら練習に励んできました。

**予定していたプログラム** 【第1部】オープニング(3団体)

【第2部】郷土芸能(5団体)

【第3部】芸能披露(13団体)

**主催** 文化庁、厚生労働省、宮崎県、宮崎県教育委員会、三股町、三股町教育委員会、第35回国民文化祭宮崎県実行委員会、第20回全国障害者芸術・文化祭実行委員会、第35回国民文化祭、第20回全国障害者芸術・文化祭三股町実行委員会、三股町文化協会

## 050 まちななか古墳体感ウォーク (中止)

国富町

開催日：令和3年9月26日(日) 開催場所：国富町内の史跡



予定していた  
事業内容

国富町中心部の高台に点在する本庄古墳群を中心に、地元ガイドの案内で巡る史跡ウォーク。国文祭・芸文祭を機に、国指定の史跡である同古墳群を地元の人たちに再確認してもらうとともに、情報発信をしようと企画されました。

同古墳群は、大淀川支流の本庄川と深年川にはさまれた標高約40mの高台、東西約3km、南北1kmに渡って分布しています。4世紀後半から6世紀に築造されたとみられ、前方後円墳17基、円墳37基、横穴墓2基、地下式横穴墓1基が国の史跡に指定されています。前方後円墳のほとんどは、西に向けて前方部が築営されるなど軸は東西方向となっています。未調査の古墳が多く残っていますが、かなりの有力者が統治していたとみられます。土を盛った高塚式古墳と、南九州特有の地下式横穴墓が一緒にあるという特色もあります。

史跡巡りは約1時間半のコースで、1～5人の個人または団体での参加を募集していました。



予定していた  
スケジュール

国富町役場前出発—史跡巡り—交流プラザくにとみ屋前到着

主催

文化庁、厚生労働省、宮崎県、宮崎県教育委員会、国富町、国富町教育委員会、第35回国民文化祭宮崎県実行委員会、第20回全国障害者芸術・文化祭実行委員会、第35回国民文化祭、第20回全国障害者芸術・文化祭国富町実行委員会

051 米良山の神楽祭典  
～古より紡がれてきた米良の絆～ (中止)

西米良町

開催日：令和3年10月2日(土) 開催場所：西米良村トレーニング施設



予定していた  
事業内容

西米良村と西都市北部、木城町西部の旧東米良地区は、歴史的に「米良山」と呼ばれ、一つの生活文化圏を形成していました。尾八重神楽(西都市)、村所神楽、小川神楽、越野尾神楽(以上西米良村)、中之又神楽(木城町)は今も脈々と受け継がれ、平成29年3月に国の「記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財」に選択されています。

毎年冬には、夜を徹して33番が奉納され、地区を離れた人たちも里帰りして旧交を温めなおす貴重な行事となっています。山村の神楽だけに狩猟を連想させる舞いがあるほか、それぞれの地域性を表現しているものもあります。国文祭・芸文祭の開催に合わせ米良山の神楽が一堂にそろい、神楽を奉納して、地域のつながりを再確認する場とする予定でした。

民俗学が専門で、みやざきの神楽魅力発信委員会委員長を務める國學院大学の小川直之教授の講演や神楽の様子を紹介するパネル展示、餅まき、来場者への御幣プレゼントも予定していました。

予定していた  
プログラム

【アトラクション】米良太鼓【講演】「米良山の神楽について」小川直之【神楽公演】「清山」(小川神楽・西米良村)、「地割」(尾八重神楽・西都市)、「<sup>しょうぐん</sup>将巖」(越野尾神楽・西米良村)、「獅子とり荒神」(中之又神楽・木城町)、「<sup>たちからおのみこと</sup>手力男命」(村所神楽・西米良村)▽餅まき

主催

文化庁、厚生労働省、宮崎県、宮崎県教育委員会、西米良村、西米良村教育委員会、第35回国民文化祭宮崎県実行委員会、第20回全国障害者芸術・文化祭実行委員会、第35回国民文化祭、第20回全国障害者芸術・文化祭西米良村実行委員会



## 052 「風流」ごかせフェスタ(中止)

五ヶ瀬町

開催日：令和3年10月10日(日) ■ 開催場所：五ヶ瀬町総合公園「G-パーク」



### 予定していた 事業内容

「風流」<sup>ふりゅう</sup>とは、華やかな衣装で着飾った演者が、太鼓や笛、歌に合わせて踊る日本の民俗芸能の一つです。人目を引くという「風流」を体現するもので、生活や信仰の中での人々の祈りや感謝、喜びなどを表現しています。高齢化の中で担い手不足が心配されており、全国の風流踊りが集まり、全国に発信することでその良さを見直し、次世代に引き継いでいこうと企画されました。

平成31年に結成された全国民俗芸能「風流」保存・振興連合会の協力のもと、岩手県や秋田県、岡山県、香川県などの保存団体が参加し、華麗な盆踊りや勇壮な念仏剣舞など披露する予定でした。さらに、全国に点在する各保存会が相互交流して親睦を深めるとともに、風流の芸能が持つ共通性、多様性を生かしてユネスコ無形文化遺産登録への契機にもしようと考えていました。

フェスタでは、町内の民俗芸能保存会による神楽や踊り棒術など貴重な演目の披露のほか、子どもたちが伝承する民俗芸能や伝統芸能の発表も予定していました。

### 予定していた 出演団体

【オープニング】五ヶ瀬中等教育学校太鼓部「鼓魂」、五ヶ瀬民謡会【公演】滑田鬼剣舞保存会、岩崎鬼剣舞保存会、川西大念仏剣舞保存会、朴ノ木沢念仏剣舞保存会(岩手県)、毛馬内盆踊保存会(秋田県)、荒踊保存会・坂本小学校荒踊伝承教室、五ヶ瀬町文化協会、鞍岡タイシャ流棒術保存会、古戸野神社神楽保存会(五ヶ瀬町)【DVD・衣装展示】西馬音内盆踊保存会(秋田県)、佐文綾子踊保存会(香川県)【DVD上映】白石踊保存会(岡山県)

### 主催

文化庁、厚生労働省、宮崎県、宮崎県教育委員会、五ヶ瀬町、五ヶ瀬町教育委員会、第35回国民文化祭宮崎県実行委員会、第20回全国障害者芸術・文化祭実行委員会、第35回国民文化祭、第20回全国障害者芸術・文化祭五ヶ瀬町実行委員会

## 053 ～古の歴史を伝える“かぐら”の祭典～ 城山かぐらまつり(中止)

延岡市

開催日：令和3年10月17日(日) ■ 開催場所：延岡城跡城山公園北駐車場



### 予定していた 事業内容

「城山かぐらまつり」は、神楽の伝承者に発表の機会を設けることで後継者育成を図るとともに、地域文化の向上や地域おこしを目的に延岡城跡で平成9年から毎年開催。千人殺しの石垣の前に御神屋が設置され、延岡市の晩秋の祭りとして定着しています。

今回は、例年参加している同市近郊の神楽に加え、国文祭・芸文祭企画として大分県佐伯市の宇目小野市神楽、竹野浦神楽、諸塚村の戸下神楽を招待。「山、海、里に伝わる神楽」をサブテーマに、普段それぞれの地元でしか披露されない神楽も交えて、貴重な伝統芸能が一堂に会する機会として、大きな注目を集めていました。

開催に向けて同市内の各保存会から10～40代の若手10人が、事務局に新たに加わり準備を進めてきましたが、新型コロナウイルスの影響により、十分な練習時間が確保できないことなどから、やむを得ず開催を断念しました。

### 予定していた 出演団体

延岡市／大峽神楽保存会、尾崎神楽保存会、川坂神楽保存会、伊福形神楽保存会、早日渡神楽保存会、三川内神楽保存会 ▽日向市＝坪谷神楽保存会▽門川町／門川神楽保存会▽招待／宇目小野市神楽保存会(大分県)、竹野浦神楽保存会(大分県)、戸下神楽保存会(諸塚村)

### 主催

文化庁、厚生労働省、宮崎県、宮崎県教育委員会、延岡市、延岡市教育委員会、第35回国民文化祭宮崎県実行委員会、第20回全国障害者芸術・文化祭実行委員会、第35回国民文化祭、第20回全国障害者芸術・文化祭延岡市実行委員会、城山神楽祭実行委員会 ▽協賛：旭化成株式会社

## 054 小林市郷土芸能フェスティバル (中止)

小林市

開催日：令和3年10月17日(日)

開催場所：小林市文化会館

予定していた  
事業内容

本フェスティバルは小林市内各地に残る民俗芸能の継承と後継者を育成することを目的に、3年に1度、開催されています。

今回は、岩戸神楽や輪太鼓踊りなどの郷土芸能保存会11団体と、文化財愛護少年団5団体が参加し、さまざまな演目を披露する予定でした。県外からのゲストとして、八坂神社彌榮太鼓保存会(石川県)と、江戸太神楽(東京都)の2団体を招待。地域色豊かで勇壮なステージと文化交流を図る貴重な機会に期待を寄せていました。

また、「地域民俗芸能披露と次世代への継承」をサブテーマに掲げ、小林市文化財愛護少年団で郷土芸能を継承する児童・生徒が演目を披露するほか、親睦を図るための交流会を計画していました。

予定していた  
出演団体

小林市郷土芸能保存会連合会(11団体)、小林市文化財愛護少年団、八坂神社彌榮太鼓保存会(石川県)、江戸太神楽(東京都)

## 主催

文化庁、厚生労働省、宮崎県、宮崎県教育委員会、小林市、小林市教育委員会、第35回国民文化祭宮崎県実行委員会、第20回全国障害者芸術・文化祭実行委員会、第35回国民文化祭、第20回全国障害者芸術・文化祭小林市実行委員会、小林市郷土芸能保存会連合会

## 055 童謡の祭典

宮崎市

開催日：令和3年7月4日(日)

開催場所：宮崎市民文化ホール 大ホール



## 実施状況

県内外の合唱団や演奏団体など19団体、約320人が「歌い継いでいこう童謡の心」をテーマに、それぞれが選曲した童謡を披露。約700人の観客が澄んだ歌声に耳を傾けました。

コンサートは3部構成。第1、2部では県内外のコーラスグループや童謡愛好家団体が、「靴が鳴る」など約40曲を熱唱。宮崎市在住の日本童謡協会会員の皆藤光男さんが作詞した「かばさんのあくび」が披露されると、会場では手拍子が巻き起こり、楽しい雰囲気に包まれました。

第3部では、「歌の伝道師」として知られる「ボニージャックス」と、全国各地で「うたごえ喫茶音楽会」を開催する「ベイビーブー」の男声コーラスグループ2組が特別ゲスト出演。「めだかの学校」などを歌い会場を盛り上げました。

来場した子どもは「おばあちゃんが出るので聴きにきました。幼稚園で歌った『にじ』を歌ってくれてうれしかった」と笑顔で話していました。

## プログラム

【1部】地元合唱団・演奏団体12団体が出演

【2部】全国から公募した童謡愛好家・団体7団体が出演

【3部】「ボニージャックスとベイビーブー」スペシャルコンサート

## 主催

文化庁、厚生労働省、宮崎県、宮崎県教育委員会、宮崎市、宮崎市教育委員会、第35回国民文化祭宮崎県実行委員会、第20回全国障害者芸術・文化祭実行委員会、第35回国民文化祭、第20回全国障害者芸術・文化祭宮崎市実行委員会、宮崎市芸術文化連盟・童謡の日コンサート実行委員会

## 056 057 世界で初めてのオペラ「赤毛のアン」

都城市 宮崎市

都城公演 ■ 開催日：令和3年7月25日（日） ■ 開催場所：都城市総合文化ホール 大ホール  
 宮崎公演 ■ 開催日：令和3年8月1日（日） ■ 開催場所：宮崎市民文化ホール 大ホール



## 実施状況

宮崎県オペラ協会が10年をかけて制作し、世界初演したオペラ版「赤毛のアン」が、都城市と宮崎市の会場で再演されました。

台本と演出を担当したのは、宮崎市出身で演出家の倉迫康史さん。作曲は、作曲家の佐橋俊彦さん。お二人により、世界で初めてグランドオペラ化されました。演奏は土田浩さんの指揮の下、本県在住者で構成されたキャストや合唱団、オーケストラなど総勢82人。

舞台は全2幕で構成。第1幕では孤児のアンと、老マシューとマリラの兄妹が強い絆で結ばれた家族になるまでを。第2幕では、アンが個性豊かな村人や友人たちと交流を深め、意思のある女性へと成長す

る姿が描かれました。

宮崎県オペラ協会はベテランの歌手から中学生までのプロ、アマチュアで構成されています。躍動感とテンポ感のある中に家族愛や友情などが織り込まれた舞台上、それぞれが持ち役を演じ切り、合唱やオーケストラの好演と相まって、両公演とも大きな感動を巻き起こしました。

**プログラム** 【オペラ「赤毛のアン」全2幕の公演】 台本・演出／倉迫康史▽作曲・音楽監督／佐橋俊彦▽指揮／土田浩▽総監督／地村俊政（宮崎県オペラ協会）

## 主催

文化庁、厚生労働省、宮崎県、宮崎県教育委員会、都城市、都城市教育委員会、宮崎市、宮崎市教育委員会、第35回国民文化祭宮崎県実行委員会、第20回全国障害者芸術・文化祭実行委員会、第35回国民文化祭、第20回全国障害者芸術・文化祭都城市実行委員会、第35回国民文化祭、第20回全国障害者芸術・文化祭宮崎市実行委員会、宮崎県オペラ協会

## 058 かわみなみサマーコンサート

川南町

開催日：令和3年8月22日(日) 開催場所：サンA川南文化ホールトントロンドーム



## 実施状況

プロの音楽家たちと川南町の合唱団が共演するコンサートが開かれました。「歌声あふれるまちづくり事業」に取り組む同町が毎年2回開催しています。今回は新型コロナのため2年ぶりの公演となりました。クラシックからJ-ポップまで幅広い曲目が演奏され、会場に詰め掛けた約100人を魅了しました。

同事業の総合プロデューサーを務める国立音楽大学講師で、ピアニストの榎本潤さんの演奏に合わせて2部構成で行われました。第1部は、榎本さんが指導する声楽アンサンブル、Jスコラーズが送る名曲の調べ。オペラ椿姫の「乾杯の歌」で華やかに開演し、演歌「津軽海峡・冬景色」、「せんせい」、「栄冠は君に輝く」など迫力のある歌声を響かせました。

第2部では、地元小中学生によるジュニアJ・スコラーズ、婦人合唱団ヴォーチェ・プリランテが出演。Jスコラーズのメンバーも加わり、アニメ主題歌や「栄光の架橋」「千の風になって」「川南町歌」などを披露。息の合ったハーモニーが響くと、会場から大きな拍手が寄せられました。出演者たちは「久しぶりにお客さんの前でステージに立てて、心からうれしい」「プロと一緒に歌え、いい経験になりました」などと話していました。

プログラム 【第1部】 Jスコラーズが送る名曲の調べ  
【第2部】 地元合唱団と歌声の響宴！

## 主催

文化庁、厚生労働省、宮崎県、宮崎県教育委員会、川南町、川南町教育委員会、第35回国民文化祭宮崎県実行委員会、第20回全国障害者芸術・文化祭実行委員会、第35回国民文化祭、第20回全国障害者芸術・文化祭川南町実行委員会

## 059 伝統・未来音楽祭—音で結ぶ友情の祭典—

宮崎市

開催日：令和3年8月29日(日) 開催場所：清武文化会館 半九ホール



## 実施状況

宮崎市の津軽三味線グループ村上三絃道の演奏を中心に、ダンスユニットやコーラス隊など総勢約90人が共演。多彩な演目で観客約230人を楽しませました。

ステージは2部構成。第1部は、村所神楽(西米良村)との共演で幕を開けました。神楽が「神の世界」、三味線が「人の世界」を表現して、日本の「神と人の世界」を創出。エネルギッシュな演奏と勇壮な舞いで観客を引き付けていました。また、コンテンポラリーダンスとの共演もありました。

第2部は「和洋の融合」。ピアノ、ベース、ドラム、ヴァイオリンなどと、タンゴの名曲「リベルタンゴ」を合奏。和洋の融合で新鮮で軽快な音楽を響かせ、会場から大きな拍手が寄せられました。

また、同文化会館の小ホールでは、ダウン症の書家・有馬圭太郎さんの個展「日々是好日」も開催され、ジャンルを超えたイベントとなりました。

## 出演団体

村上三絃道、バイオレットコーラス、BBT、琉球國祭り太鼓宮崎支部、日本郷土民謡協会宮崎県支部洲明会、んまつーポス(コンテンポラリーダンス)、日本舞踊英流英聖秀、村所神楽、佐藤公基(尺八)、大西洋介(ピアノ)、大西映光(ベース)、服部央(パーカッション)、日高慶子(ヴァイオリン)、土田浩(指揮)

## 主催

文化庁、厚生労働省、宮崎県、宮崎県教育委員会、宮崎市、宮崎市教育委員会、第35回国民文化祭宮崎県実行委員会、第20回全国障害者芸術・文化祭実行委員会、第35回国民文化祭、第20回全国障害者芸術・文化祭宮崎市実行委員会、村上三絃道

## 060 盆地に響く歌声～少年少女合唱の祭典 in 都城

都城市

開催日：令和3年10月17日(日)

開催場所：都城市総合文化ホール 大ホール



## 実施状況

本事業のテーマソングを作曲したピアニストの小林真人さんの伴奏による全員合唱でスタートし、各団体が午前と午後で異なるプログラム内容のステージを披露しました。

都城少年少女合唱団は、合唱組曲「青い国・蒼い海」と童謡のステージ、クラシック名曲集を演奏。津久見樫の実少年少女合唱団は、合唱ミュージカル「森の歌」、合唱組曲「子馬ものがたり」でハイレベルな演奏を披露。杉並児童合唱団は、ベートーベンの名曲による合唱組曲「よろこびハーモニー」、ダンスも交えた「ビートルズメドレー」で日本トップレベルの演奏を披露しました。また、小林真人さんのスペシャルステージもあり、盛りだくさんの内容の演奏会となりました。

フィナーレでは、本事業のテーマソング「響け！光の歌」を小林さんのピアノ伴奏で大合唱、観客からの手拍子も加わり、会場が一体となりました。

## 出演

小林真人(作曲家・ピアニスト)、杉並児童合唱団(東京都)、津久見樫の実少年少女合唱団(大分県)、都城少年少女合唱団(宮崎県)

## 主催

文化庁、厚生労働省、宮崎県、宮崎県教育委員会、都城市、都城市教育委員会、第35回国民文化祭宮崎県実行委員会、第20回全国障害者芸術・文化祭実行委員会、第35回国民文化祭、第20回全国障害者芸術・文化祭都城市実行委員会、都城音楽協会

## 061 大正琴の祭典

宮崎市

開催日：令和3年10月10日(日)

開催場所：宮崎市民文化ホール 大ホール



## 実施状況

宮崎県内をはじめ全国から団体、個人計約400人(子供の部の応募者を含む)が参加しました。日ごろから練習してきた大正琴の演奏を披露し、伝統の音色で会場を包みました。

ポップス、クラシックなど多彩ジャンルが演奏されました。コロナ禍で思うように合同練習ができない中で、工夫を凝らした練習で仕上げてきた愛好者たちは、表現力豊かに息の合ったパフォーマンスを繰り広げ、情緒あふれるハーモニーに観客は聴き入っていました。

このほか18歳以下を対象にした全国コンクールも開催され、ソロとアンサンブル部門に、小学生から高校生までの22人が出場しました。懸命に演奏する姿に、会場から大きな拍手が送られていました。

参加者からは「地域、世代を超えた交流ができた」と喜びの声が聞かれたほか、会場からは「全国からの参加者の演奏が聴ける貴重な機会になりました。とても感動しました」などの声も聞かれました。年々向上する大正琴の演奏技術を次世代の継承につなげる、貴重な大会となりました。

## 表彰

【子供の部】文部科学大臣賞、ソロ部門A(12歳以下)、ソロ部門B(12歳を超える)

## 主催

文化庁、厚生労働省、宮崎県、宮崎県教育委員会、宮崎市、宮崎市教育委員会、第35回国民文化祭宮崎県実行委員会、第20回全国障害者芸術・文化祭実行委員会、第35回国民文化祭、第20回全国障害者芸術・文化祭宮崎市実行委員会、公益社団法人大正琴協会

## 062 オペラ名曲アルバム ―郷土ゆかりの音楽家による饗宴―

都城市

開催日：令和3年10月10日(日) 開催場所：都城市総合文化ホール 大ホール



## 実施状況

都城市出身または在住の音楽家を中心に12人が出演しました。コロナ禍の中、イタリア、ドイツから帰国して出演した声楽家もあり、有名な歌劇曲の数々を、豊かな美声で披露しました。

中須美喜さん(同市出身、東京都)のソプラノで開演。東由子さん(同市)は、都城少年少女合唱団とともに歌劇「夕鶴」を披露し、河野幸子さん(同市)の歌では、コスミックバレエスタジオの2人がバレエで花を添えました。

イタリアで活躍する黒木真弓さん(同市出身)は、同市内でフラメンコ教室を主宰する松枝豊子さんと登場。「カルメン」に合わせた情熱的な舞踊とともに、メゾソプラノの歌声が会場に響き渡りました。

案内役を務めたフルート奏者の桐原直子さん(宮崎市)は、「技術の高さや表現力、経験がいかに発揮された」と講評。黒木さんは「都城は私の音楽のルーツ。出演できてうれしかった」と話していました。

## 演目

カルメン、夕鶴、愛の妙薬、ラ・ポエム他からのアリア、二重唱

## 出演者

河野幸子(ソプラノ)、黒木真弓(メゾソプラノ)、田村舞子(ソプラノ)、中須美喜(ソプラノ)、永野朱美(ソプラノ)、東由子(ソプラノ)、増田貴寛(テノール)、増田弥生(メゾソプラノ)、松元美裕子(ソプラノ)、林政文(バリトン)、間世田采伽(ピアノ)、宮原祥子(ピアノ)、松枝豊子(ダンス)、寿山智美(フルート)、都城少年少女合唱団、コスミックバレエスタジオ

## 主催

文化庁、厚生労働省、宮崎県、宮崎県教育委員会、都城市、都城市教育委員会、第35回国民文化祭宮崎県実行委員会、第20回全国障害者芸術・文化祭実行委員会、第35回国民文化祭、第20回全国障害者芸術・文化祭都城市実行委員会、一般社団法人都城芸術文化協会

## 063 ハーモニカフェスティバル 2020

宮崎市

開催日：令和3年10月16日(土) 開催場所：宮崎市民プラザ オルブライトホール



## 実施状況

全国のハーモニカ愛好家や日本を代表するトッププロの演奏家たちが本県に集結。2部構成で、来場者たちを美しく懐かしいハーモニカの世界へ誘いました。

第1部は、全国のハーモニカ愛好者らが出演しました。関東・関西・中国地方・九州管内から募集に応じた37組が舞台へ。複音ハーモニカに加えて普段宮崎ではあまり聴けないクロマチックハーモニカの音色も響きました。また、伴奏楽器であるコードハーモニカやバスハーモニカなど、一般に知られていないハーモニカも紹介されました。抒情曲、歌謡曲、外国民謡、演歌、クラシック、ラテン音楽などさまざまなジャンルの曲をソロ、またはアンサンブルで披露し、多様な音楽が彩りました。

第2部では、プロの演奏家たちが登場。複音ハーモニカのソロ演奏、クロマチックハーモニカとコードハーモニカのデュオ演奏、ブルースハーブのソロ演奏にギター伴奏も加わり、その素晴らしい演奏に演奏者と会場が一体となり、楽しい時間となりました。

## プログラム

【第1部】全国ハーモニカ愛好者との交流演奏会～第7回宮崎ハーモニカ愛好会演奏会～

【第2部】日本を代表する演奏家達による演奏会

## 主催

文化庁、厚生労働省、宮崎県、宮崎県教育委員会、宮崎市、宮崎市教育委員会、第35回国民文化祭宮崎県実行委員会、第20回全国障害者芸術・文化祭実行委員会、第35回国民文化祭、第20回全国障害者芸術・文化祭宮崎市実行委員会、宮崎ハーモニカ愛好会

## 064 国民文化祭・ベートーベン生誕250周年記念のべおか「第九」演奏会

延岡市

開催日：令和3年10月16日(土)

開催場所：延岡総合文化センター 大ホール



## 実施状況

プロのソリストと延岡市民をはじめ公募で選ばれた団員たちが、ベートーベン生誕250周年を記念し交響曲第9番を歌い上げました。団員たちは全員マスク姿での熱唱。集まった約800人の観客は無言のまま、いつもより大きな拍手を送っていました。

のべおか第九を歌う会(今村愛子会長)による演奏会は、年末の風物詩として定着。延岡市出身の山脇幸人さんが指揮し、延岡フィルハーモニー管弦楽団が演奏。同市出身のバリトン今村雅彦さんらソリスト4人に公募の団員、地元の中高生も加わり総勢約220人で演奏されました。

フィナーレとなる第4楽章「歓喜の歌」では、一体感のある美しい歌声が会場に響き渡り、惜しめない拍手が送られました。合唱に参加した生徒は「歌い終わった達成感が大きい」と満足げに話していました。また鑑賞した中学生は「マスクを着けているのに歌声もしっかり、心に響く音楽でした」と話していました。

## プログラム

歌劇「コリオラン」序曲／(ベートーベン作曲)▽「第九」日本語訳の朗読▽交響曲第9番ニ短調・作品125合唱付／(ベートーベン作曲)

## 出演

山脇幸人(指揮)、延岡フィルハーモニー管弦楽団(管弦楽)  
【ソリスト】藤本いくよ(ソプラノ)、岡村彬子(メゾソプラノ)、笹田博昭(テノール)、今村雅彦(バリトン)、のべおか「第九」を歌う会(合唱)

## 主催

文化庁、厚生労働省、宮崎県、宮崎県教育委員会、延岡市、延岡市教育委員会、第35回国民文化祭宮崎県実行委員会、第20回全国障害者芸術・文化祭実行委員会、第35回国民文化祭、第20回全国障害者芸術・文化祭延岡市実行委員会、のべおか「第九」を歌う会、公益財団法人のべおか文化事業団 ▽協賛=旭化成株式会社

## 065 九州シティバンドフェスティバル 2020 in 宮崎

宮崎市

開催日：令和3年10月17日(日)

開催場所：宮崎市民文化ホール 大ホール



## 実施状況

「九州の一般吹奏楽団が一つに」をテーマに、九州8県から23団体、計162人が参加。それぞれが特色を生かして息の合った演奏を披露し、会場を魅了しました。

前半の部は、県内6団体のバンドで編成して、「神々の系図～神と人間が共存する土地へ～」を演奏。作曲家の清水大輔さんが宮崎に伝わる神話や風景をモチーフに作曲したもので、観客を歴史ロマンの世界へ誘いました。

後半は九州の出演者を2グループに分けて編成し、「GR」や「ローマの松」を演奏。23団体総勢130人のオール九州合同バンドは、土気シビックウインドオーケストラ(千葉県)の音楽監督・加養浩幸さんによる指揮で「エリ・カミーノ・リアルオール」を披露。力強く壮大な世界観を演出し、会場から大きな拍手が送られました。

## 出演

市民吹奏楽団大牟田奏友会、佐賀市民吹奏楽団、長崎市民吹奏楽団、荒尾市民楽団864I、菊池市民吹奏楽団、熊本ウインドオーケストラ、熊本市市民吹奏楽団、合志吹奏楽団「響」、すいみいブラス、玉名女子ウインドアンサンブル、Who's Wind Ensemble、碧落アンサンブル、佐伯市民吹奏楽団、中津市民吹奏楽団、Armonioso 吹奏楽団、アンサンブル南星、宮之城吹奏楽団、日南市民吹奏楽団、日向市民吹奏楽団、ひむか Sound CLUB、都城市民吹奏楽団、宮崎市民吹奏楽団、宮崎吹奏楽倶楽部

## 主催

文化庁、厚生労働省、宮崎県、宮崎県教育委員会、宮崎市、宮崎市教育委員会、第35回国民文化祭宮崎県実行委員会、第20回全国障害者芸術・文化祭実行委員会、第35回国民文化祭、第20回全国障害者芸術・文化祭宮崎市実行委員会、九州シティバンドフェスティバル 2020 in 宮崎実行委員会、九州一般吹奏楽連盟

## 066 オペラガラコンサート in NOBEOKA (中止)

延岡市

開催日：令和3年9月12日(日)

開催場所：延岡総合文化センター

予定していた  
事業内容

宮崎県内在住または、県にゆかりのあるソリスト11人と、ひむかオペラ合唱団が、延岡フィルハーモニー管弦楽団の演奏に合わせて、世界的に人気のあるオペラのアリアや二重唱を中心に歌声を響かせる予定でした。

第1部はモーツァルトの代表的なオペラの特集。曲ごとにあらすじを説明する進行役を配置し、趣向を凝らした演出をすることにしていました。第2部はイタリアオペラの各曲の特集。ひむかオペラ合唱団の合唱、ソリストの二重奏などを織り込み、出演者全員によるヴェルディ作曲「椿姫」から「乾杯の歌」で締めくくる予定でした。

予定していた  
プログラム

【1部「愛のモーツァルト」】歌劇「フィガロの結婚」／「序曲」、「もう飛ぶまいぞ、この蝶々」「恋とはどんなものかしら」、「いとしいわが子よ、ようやく会えたわ」(6重唱)▽歌劇「ドン・ジョヴァンニ」／「行って、無慈悲な人、行って」(2重唱、「手を取りあって」(2重唱)▽歌劇「コジ・ファン・トゥッテ」／「ああ、なんて一瞬のうちに」(1幕フィナーレ6重唱)【2部「VIVA イタリア!」】ヴェルディ作曲・歌劇「ナブッコ」／「行け我が想いよ、金色の翼に乗って」▽ロッシーニ作曲・歌劇「セヴィリヤの理髪師」／「陰口はそよ風のように」▽ドニゼッティ作曲・歌劇「愛の妙薬」／「一言だけアディーナ!」(2重唱)▽ヴェルディ作曲・歌劇「椿姫」／「なんと青い顔かしら」▽ヴェルディ作曲・歌劇「イル・トロヴァトーレ」／「私の願いを聞いてください」(2重唱)▽ヴェルディ作曲・歌劇「仮面舞踏会」／「お前こそ心汚すもの」▽プッチーニ作曲・歌劇「蝶々夫人」／「ある晴れた日に」▽ヴェルディ作曲・歌劇「椿姫」／「乾杯の歌」【出演団体】ひむかオペラの会、延岡フィルハーモニー管弦楽団、指揮／椋山達己(同楽団音楽監督)

## 主催

文化庁、厚生労働省、宮崎県、宮崎県教育委員会、延岡市、延岡市教育委員会、第35回国民文化祭宮崎県実行委員会、第20回全国障害者芸術・文化祭実行委員会、第35回国民文化祭、第20回全国障害者芸術・文化祭延岡市実行委員会、ひむかオペラの会、公益財団法人のべおか文化事業団 ▽協賛＝旭化成株式会社

## 067 はっぴいロックフェス(中止)

延岡市

開催日：令和3年10月17日(日)

開催場所：JR 延岡駅前複合施設エンクロス周辺

予定していた  
事業内容

JR 延岡駅前複合施設エンクロスをメイン会場として、延岡市の中心市街地の複数個所にステージを設け、「僕らのまちなか音楽祭」をテーマに、街歩きをしながら気軽に音楽を楽しめるストリートライブを予定していました。さまざまなジャンルの音楽を全世代が気軽に楽しめ、中心市街地の賑わい創出もできるよう工夫を凝らした企画で、プロ、アマ、地域やジャンルは問わず、ステージで演奏したい参加者を公募し、43組の出演が決まっていました。ゲストアーティストも複数組予定しており、第1弾として、1990年代のロックバンド、サニーデイ・サービスのボーカリストでありギタリストだった曾我部恵一さん(香川県出身)が決定。メインステージでのライブパフォーマンスに期待が集まっていました。

延岡商業高校商業科の3年生9人が企画から参加。学校の授業時間を利用して、開催の準備を進めており、高校生の視点から、情報発信や会場周辺の魅力発信を行う予定でした。

予定していた  
出演者

Deep sea diving club、Shiki、Kan Sano、曾我部 恵一 ほか

## 主催

文化庁、厚生労働省、宮崎県、宮崎県教育委員会、延岡市、延岡市教育委員会、第35回国民文化祭宮崎県実行委員会、第20回全国障害者芸術・文化祭実行委員会、第35回国民文化祭、第20回全国障害者芸術・文化祭延岡市実行委員会、はっぴいロックフェス実行委員会 ▽協賛＝旭化成株式会社、(協力)エンクロス指定管理者：カルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社